

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和4年3月24日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
3月25日（金） 10：15～17：10	オンライン開催	学術フォーラム 「COVID-19 時代のデータ社会とオープンサイエンス」
4月1日（金） 13：00～17：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「2050年カーボンニュートラル実現に向けたエネルギーシナリオ」
4月16日（土） ～4月17日（日）	オンライン開催	公開シンポジウム 「第68回構造工学シンポジウム」
4月23日（土） 13：00～16：15	オンライン開催	公開シンポジウム 「孤独・孤立と『つながり』の再生」
4月23日（土） 16：15～17：45	福岡国際会議場 ※	公開シンポジウム 「口腔に関連した新型コロナウイルス感染症の諸問」
5月5日（木・祝） 13：30～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「中等教育からはじめよう！ジェンダー平等—誰一人取り残さない、誰もが暮らしやすい社会の実現をめざして—」

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、ハイブリッド開催を考慮

2022年
3月25日(金)

10:15-17:20
オンライン開催
参加費/無料・要申し込み

日本と世界の潮流とCOVID-19後の
社会も見据え、また、学問の自由を
踏まえて、最新の事例と共にオープ
ンサイエンス時代の科学と社会の在
り方を議論する。

参加申し込み

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html>

(右QRコードもご利用ください)

問い合わせ

日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当

電話：03-3403-6295



日本学術会議主催学術フォーラム COVID-19時代のデータ社会とオープンサイエンス

【午前の部：司会】寺崎浩子（第二部会員、名古屋大学 未来社会創造機構 特任教授）

10:15 開会挨拶

菱田公一（副会長・第三部会員、明治大学知財・研究戦略機構 特任教授）

10:20 趣旨説明：

喜連川優（連携会員、オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会委員長）

10:30 「オープンサイエンス：G7における議論と今後の展望」

井上諭一（内閣府科学技術・イノベーション推進事務局審議官）

講演

10:50 「COVID-19の研究がもたらした臨床現場への影響」

忽那賢志（大阪大学大学院医学系研究科 教授）

11:25 「コロナ禍でつきつけられた、感染症領域での我が国の臨床開発力・創薬力の弱さ」

藤原康弘（第二部会員、独立行政法人医薬品医療機器総合機構 理事長）

11:50 「無症状者に対するPCR検査と医療データの利活用」

永井良三（連携会員、自治医科大学学長）

12:30 休憩

【午後の部：司会】木部 暢子（連携会員、人間文化研究機構国立国語研究所 特任教授）

14:00 「欧州におけるデータ活用政策の状況

生貝直人（一橋大学大学院法学研究科 准教授）

14:30 「世界のオープンサイエンス政策と欧州における研究データ基盤整備」

林和弘（特任連携会員、NISTEPデータ解析政策研究室長）

15:00 「オープンサイエンスと研究データ基盤整備の現状：アンケート結果速報」

穴戸常寿（特任連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科 教授）

15:30 “Towards Common European Data Spaces”

Professor Edward Curry, Director, Insight SFI Research Centre for Data Analytics, NUI Galway

16:00 休憩

16:15 パネルディスカッション

モデレータ：喜連川優（前掲）

パネリスト：（講演者）永井良三、藤原康弘、井上諭一、生貝直人、林和弘

八木隆一郎（Division of Cardiovascular Medicine, Brigham and Women's Hospital
Research fellow）

17:15 閉会挨拶

林和弘（特任連携会員、オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会幹事）



カーボンニュートラルへの取組み

日本学術会議公開シンポジウム 2050年カーボンニュートラル実現に 向けたエネルギーシナリオ

ウェブ開催
参加無料

2022年4月1日(金) 13:00~17:30

主催：日本学術会議 総合工学委員会エネルギー科学技術に関する分科会
共催：一般社団法人エネルギー・資源学会、一般社団法人日本エネルギー学会他

開催趣旨

2020年10月にわが国は2050年カーボンニュートラル（温室効果ガス実質排出ゼロ）実現を宣言し、21年4月には、30年度までに13年度比で温室効果ガス46%削減を表明した。我が国の温室効果ガス排出量の85%程度はエネルギー起源のCO₂であり、温暖化対策はエネルギー政策と不可分である。わが国のエネルギー政策はエネルギー基本計画に基づいて進められており、2021年10月に閣議決定された第6次エネルギー基本計画では、安全性(SAFETY)の確保を前提とし、2050年カーボンニュートラルなど気候変動対策(ENVIRONMENTAL COMPATIBILITY)を進める中でも、安定供給(ENERGY SECURITY)の確保やエネルギーコスト低減(ECONOMIC EFFICIENCY)に向けた取組みを進めるとし、従来からのS+3Eという基本方針を維持している。一方、21年11月にはCOP26（気候変動枠組み条約締約国会合）において、気温上昇を1.5度以内に抑制するパリ協定の努力目標の実現を目指す強いメッセージがまとめられ、石炭火力を段階的に低減することなどが合意された。このような国内外動向を踏まえて、本シンポジウムでは、わが国の2050年カーボンニュートラルを実現するためのエネルギーシナリオについて議論する。

総合司会 岩城 智香子

(日本学術会議連携会員、東芝エネルギーシステムズ株式会社 エネルギーシステム技術開発センターシニアフェロー)

13:00 開会挨拶

疇地 宏 (日本学術会議連携会員、大阪大学名誉教授)

13:05 課題と背景

山地 憲治 (日本学術会議連携会員、公益財団法人地球環境産業技術研究機構(RITE)理事長・研究所長)

13:30 「未定」

高村 ゆかり (日本学術会議第一部会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授)

14:00 「COP26を含む地球温暖化をめぐる内外情勢と日本の課題」

有馬 純 (東京大学公共政策大学院特任教授)

14:30 「カーボンニュートラル実現に向けたエネルギー・電力システム」

小宮山 涼一 (東京大学大学院工学系研究科准教授)

15:00 「脱炭素社会の実現に向けた取り組みと役割」

増井 利彦 (国立研究開発法人国立環境研究所社会システム領域室長)

15:30 「鉄鋼業のカーボンニュートラルにむけた取り組みと課題」

手塚 宏之 (日本鉄鋼連盟エネルギー技術委員長、JFEスチール(株) 専門主監(地球環境))

16:00 休憩(15分)

16:15 総合討論

山地 憲治、高村ゆかり、有馬 純、小宮山涼一、増井利彦、手塚宏之、
藤野純一 (公益財団法人地球環境戦略研究機関プログラムディレクター)

17:25 閉会挨拶

齋藤 公児 (日本学術会議連携会員、日鉄総研株式会社シニアフェロー)

事前参加登録：リンク先より参加登録してください

https://teams.microsoft.com/registration/ux5YhAUNqkincFG5mDdA_Q_yyqafZ3ZL0yGUOD8CQ03zQ_E4iyYML_HHkO4giGaox0Fng_0PHaXFfFOE0dl_GDHPvNkug.zXAPcnQhokSelvW8cq6dXw.5dZ0TR9e0SE4nW/qfZ1yma?mode=read&tenantId=84581ebbb-0d95-48aa-a770-5192983740fd

問合せ先： Carbonneutralsymp0401@gmail.com

シンポジウムのプログラムは日本建築学会構造工学論文集編集小委員会Webページにて公開予定です。随時更新いたしますので、最新版をご確認ください。→ <http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s11/>

第68回 構造工学シンポジウム

主催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会
共催：日本建築学会，土木学会

建築 CPD | 1日目：6単位 2日目：4単位

本シンポジウムは、『構造工学論文集 Vol.68』の登載論文を中心としたシンポジウムを開催することによって、産・官・学、各界の研究者・技術者に学术交流・技術交流の場を提供し、構造工学の一層の発展を目的としたものです。建築部門と土木部門それぞれの論文投稿者による発表のほか、特別講演および建築・土木合同のパネルディスカッションを実施します。

会期——2022年4月16日(土)～17日(日)

会場——東京工業大学大岡山キャンパス西9号館および
オンライン(予定)

※開催方法、会場等の変更は構造工学論文集編集小委員会Webページにてお知らせいたします。随時ご確認ください。(http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s11/)

参加費——無料(要・事前申込)

論文集——『構造工学論文集 Vol.68B』(建築)は、2022年4月上旬にJ-STAGEで発行・無料公開する予定です。なお、冊子の論文集は廃止いたします。※『構造工学論文集 Vol.68A』(土木)も、J-STAGEに掲載されます。

掲載討議方式実施のお知らせ

『構造工学論文集 B』(建築)では、掲載討議方式を実施しています。会場での討議に加えて書面による討議を実施し、その内容を次年度の論文集に掲載します。これにより、シンポジウムに参加できない読者にも討議の機会が与えられるとともに、討議内容が公表、記録されることとなります。討議実施要領ならびに討議文書様式は、論文集に掲載いたします。

●特別講演会・パネルディスカッション

会期——2022年4月16日(土) 15:00～18:00

会場——東京工業大学およびオンライン(予定)

1. 開会式 15:00～15:10

挨拶：米田雅子(日本学術会議土木工学・建築学委員会/東京工業大学)

前川宏一(日本学術会議土木工学・建築学委員会/横浜国立大学)

司会：五十田博(京都大学)

2. 特別講演会 15:10～16:10

「レジリエントな構造物の設計法」

講師：竹脇出(京都大学)

司会：五十田博(前掲)

3. 建築・土木合同パネルディスカッション 16:10～18:00

「レジリエンスな社会の実現に向けて—頻発、激化、そして多様化する災害にいかに向かうか—」

21世紀に入り、2011年東日本大震災、2016年熊本地震を含む大地震、津波をはじめとする多くの大災害が発生した。地震災害だけではなく、豪雨・大型台風等による水害、台風・竜巻等による風害を含めた自然災害も頻発し、それによる被害も激化し多様化している。このような自然災害に対応すべく、防災のみならず減災・免災、自助・共助・公助、持続可能な社会などの概念も発展してきた。生態学の分野で粘り強さとしなやかさを意味する「レジリエンス」も重要なキーワードの1つであり、建築・土木構造物に対しては地震等による外力が作用した場合の抵抗力や性能低下からの復旧力、復旧時間の短縮等が議論されてきた。より大きな意味では、頻発、激化、そして多様化する災害、さらには近年の世界的な感染症蔓延等に対し、都市全体、行政、産業・ビジネス等の分野を包含した復旧力に関わる重要な考え方として注目されている。

第68回目となる今回は、「レジリエンスな社会の実現に向けて—頻発、激化、そして多様化する災害にいかに向かうか—」と題し、持続可能な社会を実現するためのレジリエントな都市の構築を目標とし、建築・土木分野を横断した議論を行う。最初に、レジリエントな構造物の設計法として、事業継続計画策定のための地震災害等に対する建物維持・回復性能評価指標の提案に向けた議論等を含め紹介する。その後のパネルディスカッションでは、建築側、土木側からのパネラ数名を加え、具体事例として、建築物、インフラの個別の対策、地域での取り組み、国際展開、都市全体での対応等を紹介していただき、議論を予定する。

司会：永野正行(東京理科大学)
栗橋祐介(金沢大学)

主旨説明：五十田博(前掲)

パネリスト講演：

「防災リスクコミュニケーションと市民の課題解決—市民を対象にした共助・事前復興に関する防災教育—」
平田京子(日本女子大学)

「高レジリエンス構造システムの考え方」
朝川剛(東京電機大学)

「名古屋大学減災連携研究センターの活動」
飛田潤(名古屋大学)

「激甚災害に備える—性能指標としてのライフサイクルリスク・レジリエンスの役割—」
秋山充良(早稲田大学)

「講演タイトル現在調整中」
松村政秀(熊本大学)

●建築部門発表講演

会期——2022年4月16日(土) 10:00～14:35
17日(日) 10:00～15:30

会場——東京工業大学大岡山キャンパス西9号館および
オンライン(予定)

●土木部門発表講演

会期——2022年4月16日(土) 9:00～14:45
17日(日) 9:00～14:45

会場——東京工業大学大岡山キャンパス西9号館および
オンライン(予定)

公開シンポジウム
「孤独・孤立と『つながり』の再生」

主 催：日本学術会議社会学委員会・経済学委員会合同包摂的社会政策に関する多角的
検討分科会、社会学委員会社会福祉学分科会

後 援：社会政策学会、日本社会福祉学会、福祉社会学会、労務理論学会、労働社会学
会、女性労働問題研究会、日本居住福祉学会

日 時：令和4年（2022年）4月23日（土）13：00～16：15

場 所：オンライン開催

開催趣旨：

急速な社会変容と個人の生き方の多様化が進む中で、孤独・孤立の課題への関心が増している。近年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、この課題の重要性に対する認識を一層促すものであった。このような中で内閣官房に孤独・孤立対策担当室が設置され、昨年末には、「孤独・孤立対策の重点計画」が公表された。この間、当分科会は、ひきこもりや生活困窮等の顕在化した課題を有する人々のみでなく、広く社会全体に向けた「つながり」の再構築の方策について検討を重ねてきた。

今回のシンポジウムでは、第一部において、内閣官房孤独・孤立対策担当室から公表予定の孤独・孤立に関する全国実態調査の結果について、さらに「つながり」の再構築の糸口としてNPO・ボランティアの視点からの報告をいただく。続く第二部では、第一部の内容をふまえ、地域・社会福祉協議会、ジェンダー、格差・分断の視点から論点を整理する。そして最後に、参加者とともに全体での議論を行う。

次 第：

進行 和氣 純子（日本学術会議会員、東京都立大学大学院人文科学研究科教授）

13:00 趣旨説明

第一部

13:10～13：50 孤独・孤立に関する全国実態調査の結果について

登壇者調整中（内閣官房孤独・孤立対策担当室）

13:50～14：20 個人化の時代の「つながり」：エピソード・ボランティア

須田 木綿子（日本学術会議連携会員、東洋大学社会学部教授）

14:20～14:50 人と組織をつなぐ：あきたパートナーシップの取り組み
畠山 順子（特定非営利活動法人 あきたパートナーシップ理事長）

休憩

第二部

15:00～15:45 指定討論者

- 地域・社協の視点から
野口 定久（日本学術会議連携会員、佐久大学人間福祉学部教授、日本福祉大学名誉教授）
- ジェンダーの視点から
大沢 真理（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）
- 格差・分断の視点から
宮本 太郎（日本学術会議特任連携会員、中央大学法学部教授）

15:45～16:15 総合討論

日本学術会議公開シンポジウム

「口腔に関連した新型コロナウイルス感染症の諸問題」

主催：日本学術会議歯学委員会 病態系歯学分科会、臨床系歯学分科会

共催：日本口腔科学会



令和4年(2022年)

福岡国際会議場

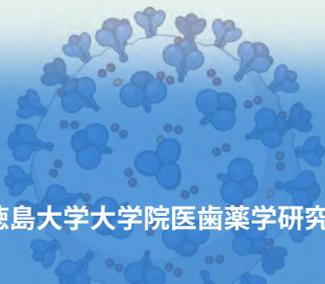
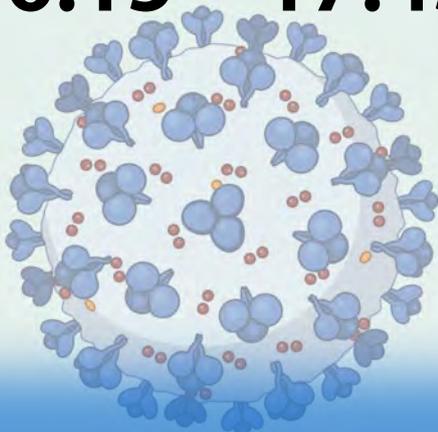
(福岡県福岡市博多区石城町2-1)

(新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、ハイブリッド開催を考慮)

4月23日(土)

16:15~17:45

新型コロナウイルス感染症の対応が現在も求められている状況において、歯学・歯科医療が新たに直面している諸問題を整理し、今後なすべき取組等につき議論する機会としたい



プログラム

挨拶：市川 哲雄(日本学術会議第二部会員、徳島大学大学院医歯薬学研究部教授)

講演

座長：山下 喜久(日本学術会議連携会員、九州大学大学院歯学研究院教授)

後藤 多津子(日本学術会議連携会員、東京歯科大学主任教授)

『口腔細菌と全身疾患の関連』

山崎 和久(理化学研究所生命医科学研究センター客員主管研究員)

『口腔・栄養面からの新型コロナウイルス感染対策』

花田 信弘(鶴見大学名誉教授)

『口の中の診断・治療と新型コロナウイルス対策』

星 和人(東京大学大学院医学系研究科教授)

総合討論

進行：中村 誠司(日本学術会議連携会員、九州大学大学院歯学研究院院長)

村上 伸也(日本学術会議第二部会員、大阪大学大学院歯学研究科教授)

討論者：山崎 和久

花田 信弘

星 和人

山下 喜久

樋田 京子(日本学術会議連携会員、北海道大学大学院歯学研究院教授)

林 美加子(大阪大学歯学部附属病院 病院長)

挨拶：村上 伸也



bio
RENDER



日本学術会議 公開シンポジウム

中等教育からはじめよう！ジェンダー平等

—誰一人取り残さない、誰もが暮らしやすい社会の実現をめざして—

中等教育に進学する時期の子どもたちは、発達段階という観点から見れば、ちょうど第二次性徴期を迎え、性や他者との深いかかわりを意識するようになり始めます。また、学校教育のカリキュラムという観点から見れば、進路にかかわって理系か文系かの選択を迫られるようにもなります。性犯罪・性暴力の防止や女子生徒の理系進学への支援といった、日本で見られるジェンダー不平等の改善策を推進するためには、中等教育におけるジェンダー平等教育が大きな鍵を握っていると考えられます。

そこで、本シンポジウムでは、日本の中等教育におけるジェンダー平等教育の現状と課題について、国際比較を通して、また歴史的考察を通して明らかにします。シンポジウムの後半では、中等教育のジェンダー平等教育に関する好事例を、実際に実践している方々から具体的に紹介していただきます。

日時 2022年5月5日(木・祝)

時間 13:30~17:00 オンライン開催

(所属は2022年3月現在)

【司会】	岡部 美香 (日本学術会議会員 大阪大学)
【開会挨拶】	杉山 久仁子 (日本学術会議会員 横浜国立大学)
【趣旨説明】	原田 範行 (日本学術会議会員 慶応義塾大学)
【講演1】	「グローバルなジェンダー指標から見た日本の中等教育と それを取り巻く環境の課題」 畠山 勝太 (NPO 法人サルタック)
【講演2】	「日本の中等教育におけるジェンダー平等の過去・現在・未来」 木村 涼子 (大阪大学)
【実践事例紹介1】	「他者とともに生きる身体と心を育てる —役割を限定しないフォークダンス授業の実践」 君和田 雅子 (お茶の水女子大学附属中学校 教諭)
【実践事例紹介2】	「学校の日常から考えるジェンダー平等教育」 工藤 洋子 (大分県立別府鶴見丘高等学校 教諭)
【実践事例紹介3】	「地方の中学生・高校生の進路選択におけるジェンダー平等の課題」 松岡 佳奈 (宮崎公立大学 人文学部 4回生) 寺町 晋哉 (宮崎公立大学)
【閉会挨拶】	野尻 美保子 (日本学術会議会員 高エネルギー加速器研究機構)

お申込み



お申込みは、左のQRコードまたは下のGoogleフォームURLからお願いいたします。

5月1日までに申し込みいただいた方に、5月2日に参加方法をメールにてお知らせいたします。

<https://forms.gle/LnDWGRpuBgHSAusR8>

- 【主催】 日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会
日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会
日本学術会議第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会
日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会
- 【共催】 日本教育学会
教育関連学会連絡協議会
人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(GEAHSS)
- 【後援】 全国ダイバーシティネットワーク

参加費無料
事前申込み制
定員 500名